

## Q5 コロナが流行して約2年余ですが、リハビリ現場で強く印象に残ったことは何ですか？

**A5** コロナ患者の院内発生に伴い、患者さんの新規入院および外来リハビリ中止となり、これまでにない程にリハビリ患者さんが減少してしまったことです。

早くコロナが収束して、セラピストも患者さんも安心してリハビリを行える日常が戻ってくることを願っています。

**A5** 職員間でのコミュニケーション方法や後輩育成等を含め、十分な時間が持てず上手く機能していないところがあります。感染対策はコロナ禍前も同様に、他疾患ごとのルールに合わせて適応出来ていたため、今後も個々のワクチン接種状況や身を守る為に必要な行動も含めて、考えていく事もあるかと思いました。



### 取材を終えて

コロナの感染者数がなかなか減少しませんが、高齢の患者さまが多いリハビリの現場では、一層感染対策に気を遣われているのを感じました。患者さまとのコミュニケーションもマスク越しになるので、以前よりご苦勞が多くなっているんですね。お忙しい中、取材に協力していただきありがとうございました。

## Ver2.0 上肢機能トレーニング ～花びら～

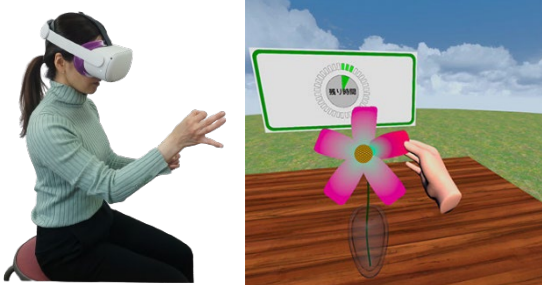
「上肢機能」と「高次脳機能」のトレーニングには6段階のレベルがあります。

「花びら」のトレーニングでは、腕を上げた状態でつまみ動作を行うトレーニングをします。患者さまの可動域などの状態に合わせてレベルを選択できます。

各レベルとも、花は前後左右に少しずつ移動して現れます。花びらをつまむにつれ、花びらの数が増えていきます。親指と人差し指だけではなく、腕、肩を動かすトレーニングにもなります。1分間につまんだ花びらの枚数でA～Dの評価がされます。

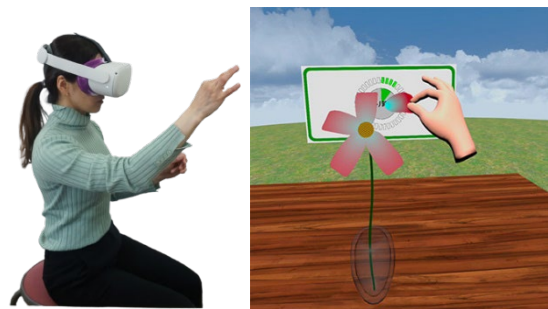
### レベル1

このレベルでは大きい花が手の届きやすい位置に現れます。



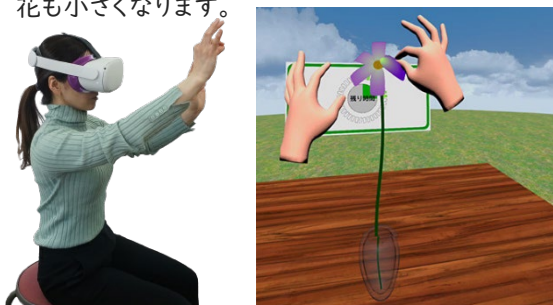
### レベル3

茎が伸びて花の位置が高くなります。



### レベル6

さらに茎が伸びて高い位置に花が現れます。花も小さくなります。



### バージョン2.0の感想

- 座ったまま行えるので、安心
- 今までやったことがないので、面白かった
- いろいろなトレーニングがあるので飽きない



患者さま



作業療法士

- 身近な IADL のトレーニングが搭載されているため、訓練に活用しやすい
- 以前はコントローラーが上手に使えず途中で諦めてしまう患者さまがいたが、ハンドトラッキング機能で素手で操作ができるようになって最後までトレーニングできた